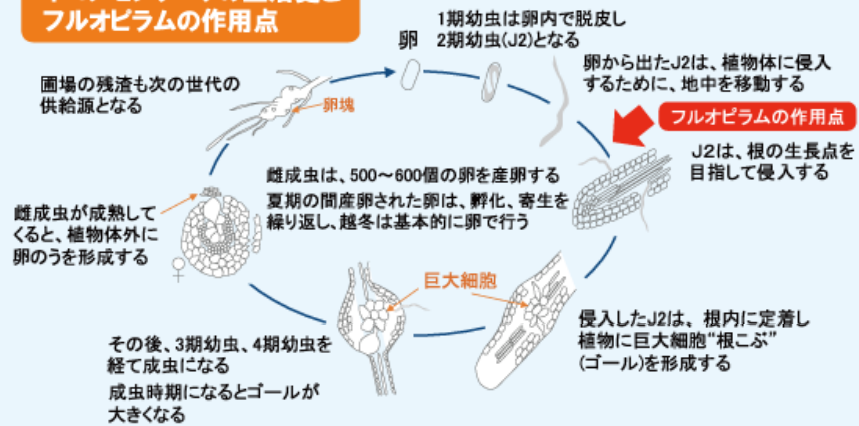


# 作用点

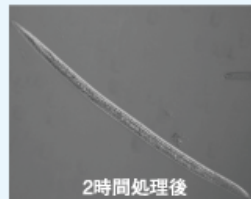
土壌中のセンチュウに直接的に作用し、  
土壌中の移動と根への侵入を阻害します。  
ビーム粒剤によってエネルギー生産ができないセンチュウは、  
活動を停止し死に至ります。

## ネコブセンチュウの生活史とフルオピラムの作用点



無処理

フルオピラム20ppmに2時間浸漬した後のサツマイモネコブセンチュウ(2期幼虫)



2時間処理後

フルオピラム処理による症状  
①運動が阻害され、動きが緩慢になる  
②動きがなくなり、まっすぐ伸びた状態となる  
③完全な麻痺状態となる

# 線虫スペクトラム

幅広いセンチュウに、高い防除効果を示します。

## ビーラム粒剤が有効なセンチュウ

### ● ネコブセンチュウ

サツマイモネコブセンチュウ  
キタネコブセンチュウ等

サツマイモネコブセンチュウ、キタネコブセンチュウ、アレナリアネコブセンチュウ、ジャワネコブセンチュウなどが知られています。いずれも寄生範囲が広く、いも類、根菜類、果菜類、葉菜類で深刻な被害をもたらします。ネコブセンチュウは卵の中で1回脱皮し、2期幼虫にふ化し土中を移動して根の中に侵入して定着します。ネコブセンチュウが定着すると周囲の細胞が巨大化し根こぶ（ゴール）と呼ばれるこぶを形成します。



### ● シストセンチュウ

ジャガイモシストセンチュウ  
ダイズシストセンチュウ等

ジャガイモシストセンチュウ、ダイズシストセンチュウが知られ、ネコブセンチュウやネグサレセンチュウと比較すると寄生範囲が狭いです。シストセンチュウの雌成虫は頭部を根の組織内に入れ、体を肥大させてシストを形成します。卵はシストで保護されているので低温や乾燥、薬剤に対する耐性が高く、寄生植物の無い状態でも土壌中で十年以上も生存します。卵からふ化した幼虫は、根に侵入し3回の脱皮を経て成虫となります。



### ● ネグサレセンチュウ

キタネグサレセンチュウ  
ミナミネグサレセンチュウ等

キタネグサレセンチュウ、ミナミネグサレセンチュウ、クルミネグサレセンチュウなどが知られており、いずれも寄生範囲が広く、キタネグサレセンチュウによる根菜類の被害が問題になっています。ネコブセンチュウは作物の根の中に定着しますが、ネグサレセンチュウは定着する事はなく根と土中を移動しながら加害します。ネグサレセンチュウは2期幼虫から成虫の全ステージが加害し、侵入と脱出を繰り返し、土壌病害の発病を助長する事が知られています。



### ● クキセンチュウ

イモグサレセンチュウ等

クキセンチュウはニンニクに寄生して大きな被害をもたらすイモグサレセンチュウが知られニンニク以外にアイリス、ラッキョウなどでも被害が報告されています。イモグサレセンチュウは土壌中または鱗茎中で生活し、幼虫・成虫が鱗茎に寄生して加害します。寄生した種球を植え付けると鱗茎内部の幼芽腐敗により、未萌芽や萌芽しても枯死を引き起こします。



## 使用上のポイント

### 散布



植付、播種前に土壌全面に均一に散布して下さい。

長年の連作により線虫密度が高まっている圃場や、前作の残渣の残る圃場等、線虫被害が多いと予想される圃場では他の薬剤(土壤くん蒸剤)との体系処理をお奨めします。

### 混和



表層から20cm程度の深さまで、ムラがないように、丁寧に土壌と混和して下さい。(土壌中の線虫は地表面から**10-20cm**の層に多く分布)

処理時の土壌の水分条件は手で握って開くとやや割れ目ができる程度が目安です。



登録の使用方法は全面土壌混和です。は種溝・植溝混和、すじ条、作条・畝処理、植穴処理等で使用しないで下さい。使用方法を守って使用して下さい。

